

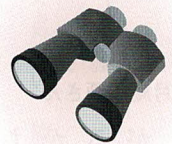


多くの人で混雑する新型コロナウイルスワクチン大規模接種センター＝5月31日、東京・大手町

「安心安全」の約束

迷走するワクチン接種

予想通りとはいえず、ワクチン接種が迷走している。菅義偉首相の強い要請によって、それぞれの現場が走り出しているが、達成すべき目標を示すだけで、実現の具体策は丸投げでは、効果的に接種が進むわけではない。小規模な自治体ではかなり高い接種率が実現しているところも



あるが、全体ではまだ1回目の接種でも2割に遠く及ばない。首相官邸主導で実現した東京と大阪の大規模接種会場では、当初こそ予約が混雑したとはいえ、6月10日には予約枠が大量に余り、政府は急ぎよ、地域の制限をはずして接種希望者を募ることにした。接種希望がどのくらいあるかをよく考えもせず始めたことだから、これくらいの見込み違いは許容範囲なのだろうか。

県境をまたぐ行動の自粛を求めている時期に、ワクチン接種は必要なことから認められるというのは釈然としない。長距離の移動は感染リスクを高めるだろうし、接種希望者の負担が大きすぎる。守るべき命の問題が二の次で、接種率を高めるこ

とだけが優先している。

10日にオンラインで開催された全国知事会では、国に対して、各地の知事からワクチンの「配分量やスケジュールなどを早期に明らかにしてほしい」との要望が相次いだ。これにはあせんとした。進軍ラッパを鳴らしながら、兵士たちは鉄砲弾薬をいっ手にできるか分からない、という戦いがあるだろうか。

9日の党首討論で首相は10月11日には希望する人には接種が終わると明言した。ワクチンがいつ届くのかも分からないのに、どうすれば接種が終わると判断できるのだろうか。早く終わりたいという思いだけが先走るだけでは、いくら笛を吹いても、誰も踊りようがない。

いったいどれだけの空約束を重ねて、口先だけの言い逃れを続けるのだろうか。1日100万回接種という約束もまだまだ達成には時間がかかりそうだ。7月末までに高齢者の接種完了も

未達に終わるのではないか。

党首討論では感染対策を徹底して「安心安全な五輪開催」をすると繰り返し強調したが、「安心安全」という約束が守られる可能性は低い。

しかし、言葉が軽く、念仏のように無意味な言葉を語り続けるだけの首相のことだから、「安心安全」の条件が満たされたと強弁して開催に突き進むに違いない。

考えてみれば、政権の維持には五輪開催は不可欠ともいえるべき要素になってきている。だから、五輪の開催は、政権の「安心安全」をもたらすということなのだろうか。

首相が五輪開催を強行して安全地帯に逃げ込もうともくろむなかで、国民は感染症と熱中症の挟み撃ちにおびえて身を縮める日々を迎えることになる。そんな悲惨な夏を迎えないため、菅首相には引き返す勇気がある。

(東京大名誉教授 武田 晴人)